

そらのとり

岩見沢聖十字幼稚園だよりNo. 3

2018年6月28日発行

6月の聖句「絶えず祈りなさい」(新約聖書 テサロニケの信徒への手紙Ⅰ-5

章17節)

チャプレン 司祭 いけだ とおる

幼い日において、自分のために、母の祈りがあり、父の祈りがあり、先生の祈りがあり、友の祈りがある、そのような中に「ぼくはある、わたしはある」ということを知るなら、おそらく、その心に決定的なものを植えつけるでしょう。けっしてひとりじゃないことを。そして、互いにその存在を祝福し、感謝するところを、他者のために祈るところを。

聖十字幼稚園では、さらに、みんなのこころの深みにおいて、すべてに先立って「わたしたちのために祈ってくださっているお方」を伝えていきます。イエスさまを。イエスさまの祈りを根っ子に聖十字幼稚園は共に成長し歩み続けます。春のときも、夏のときも、秋のときも、冬のときも……。



毎日の祈り

ちゅーりっぷ組さんから、毎日あさのおいのり、昼ごはんの前のおいのり、おやつ前のおいのり、帰りのおいのり...と、たどたどしくかわいいおいのりをしています。毎日元気でいられること、たべものがあることに感謝し、これからの原真いをこころにします。



担任の先生のおいのりの中で、災害にあった人や、病気で休みのお友達にも、思いをはせることを学びます。

園長 きくち かすこ

先生方も朝の打ち合わせのとき、夕方の反省会のさいご、全体会議のさいごなどに日直の先生がおいのりします。例えば「今日話し合われた行事を通して職員がひとつになり、子どもたちがまじりの成長できますようお守り下さい」というように、それは議事内容の確認とちがって、その先生の原真いが



語られるので、私は聴くたび「ああ、本当にそうだなあ」と励まされる思いがします。原真いを言葉にすると、静かな力にかわっていきます。

よくできた遊具って?

昨年、園庭や園内の環境を、研削しながら作ってきました。作って、子どもの遊び方を見て、また話し合っ手直しをして……

秋に室内ロフトを作ったとき「登れる」か「登れないか」の二木に区別ができています。



「よし」と言ってかけ出す子、行く先はラビリス!!

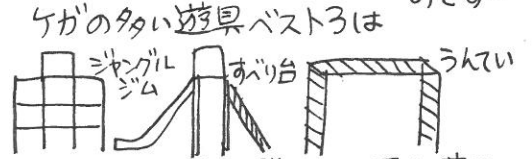
毎日おはやでゴロゴロした子も、自分から出てきました。

こわい、こわい、大事なきもちだ、おもしろい、いいんだよ

先生方が何度も話し合い、少しづつお台をおくが、卒園まじわの年長さんだけ1回登らせてあげると、いろいろ案がでてきた。でも登れない子も他に、楽しい遊びをみつけていきいきと遊んでいたのだから、やはり挑戦できる目標のまま、もう少し様子をみていくことになったのです。

そこへ今回登場したのが、自然木で作ったジャングルジム「ラビリス」です。

垂直ではなく自然な角度で、いろいろな枝が複雑に組み合わさっているため、小さい子から大きい子まで、自分の挑戦できる場所を見つけ、自分が大丈夫と思う高さまで挑戦できるのです。



これらの小さい子でも登れるのに、垂直落下しやすい作りで、ステップも等間隔なので、考えずに登ったり降りたりしてしまうためです。その点、ラビリスは常に考えながら、また、足場を確かめながら慎重に登らないと、こわい、こわい、垂直落下できないくらいになっています。ぜひお父さんお母さんも試してみてください。一度登ったらもう降りたくなくなるくらい爽快ですよ!! 「これはよくできた遊具だなぁ!」と思ってもらえると思います。

すいみん、足りてますか?

毎年2回、先生方の研修のために北翔大学の瀧澤先生に園に来ていただいています。6月27日(水)も、子どもたちの様子を見ていただき、指導の方法について先生方の悩みや質問に答えてもらっています。今回は子どもにとって情緒の安定がまず大前提で、それがなければ学びが始まらないということをみんなで確認し合いました。また、睡眠が足りていない子どもが増えているという話題になりました。東洋医学の先生も「大人でも夜10時には寝てください」というそうですから、子どもは9時には寝かせたいですね。「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」の習慣づけは子どもに送る最大のプレゼントかもしれません。